

仁平義明先生に感謝

白鷗大学教育学部教授

平 田 乃 美

仁平義明先生は、この春白鷗大学でのご定年退職の日を迎えられました。在職期間は、平成21年4月から本年3月末日までの満7年間となります。研究者としても教育者としても素晴らしい実績を有する先生を本学にお迎えできたことは、とりわけ後述する平成27年9月を含むこの期間に、教育学部長としてご在職いただけたことは殊に幸いでした。

心理学者、動物行動学者としての仁平先生のご功績を述べるにあたり、まずご紹介させて戴きたいのは、世界中を驚かせた「ハシボソガラスの自動車を利用したクルミ割り行動」のご研究（日本鳥学会誌, 1995他）です。仙台市川内のハシボソガラスは、固いクルミの殻を割って中のおいしい実を食べるために知恵を絞り、試行錯誤を経て確率の高い方法を見つけ、やがてヒトが運転する自動車を利用する行動を学習していきます。彼らが自動車を「クルミ割り」の道具として利用する方法は、ヒト（カラスが道路に降り立つとブレーキを踏んで待つドライバー）の行動や地理的・時間的条件と相まってより効果的に洗練され、さまざまなヴァリエーションが出現します。1992年、世界で初めてこの学習プロセスの確実な記録に成功した仁平先生のご発見は、今日では動物行動の進化史の中にも刻まれています（行動生物学年表『行動生物学辞典』, 2013）。本研究成果は、学術研究の世界のみならず世間一般の関心も集め、代表的なところではドイツの有名自動車メーカーのテレビCM作品（BMW-3シリーズ）の題材や、イギリスBBC放送の特集企画（The Life of Birds, Attenborough, D., 1998）になる等、国内外で広く話題となりました。

ハシボソガラスのご研究をはじめ、比較心理学、動物行動学のご功績で

知られる先生ですが、研究者としての出発は、意外にも音楽心理学の学会発表「和音の時間効果（1970）日本心理学会」であり、2007年には『日本音楽知覚心理学会』設立時の初代会長を務められています。教育者としてもまた意外なことに、学生相談に従事する保健管理センターの「カウンセラー」が大学教員としてのスタートであり、平成17年には「アカデミック・ハラスメント防止対策等のための五大学合同研究協議会」オーガナイザーとして「アカデミック・ハラスメント防止ガイドライン作成のための提言」を全国の大学に発信されています。このほか、仁平先生のご研究領域は、コンピュータ解析によるヒトの運動制御（例えば、「急速反復書字によるスリップ（書き誤り）」出現のメカニズム解明）、発達障害・自閉症、口腔・歯科矯正治療の心理、痴呆性高齢者の認知機構、防災・ヒューマンエラー・安全心理、ルート・ナビゲーション、心の回復力（レジリエンス）、嘘とだましの心理、顔（容貌）の魅力、日本のテレビ番組などでも「ほめテク（ほめ方のテクニック）」として紹介された「褒め」研究、さらには俳句の心理学までと、本稿ではとても紹介しきれないほど広く、そのご実績から現在も日本学術会議などさまざまな分野で学識者としてご貢献されています。

このように、研究者としても教育者としても幅広い領域でご活躍されてきた仁平先生ですが、やはり「いちばん好きなのは動物研究」とおっしゃいます。先生の興味関心のご対象はイヌ・ネコ、カラスから霊長類にもおよび、仙台市の八木山動物公園ではおサルさんたちのために研究費を投じてすべり台を設置されています。そして、動物行動学の専門家を含む周囲の予想に反して「サルのすべり台遊び行動（仁平・今野，2008年実施）」の記録に成功され、その伝播と新しい行動に挑戦するサルの性別や世代などの特徴をまとめられました。ご講義の教室では、サルたちが次々に尾を片側に横すべりで遊ぶ映像に学生たちの歓声が上がります。研究成果だけをみれば本当に楽しく面白いご研究のようですが、その陰には膨大な時間とご苦勞を伴う自然科学研究の厳しさがあることは想像に難くありません。

しかし、仁平先生は自然界あるいは飼育環境の中ですら膨大な時間と労力を要する観察記録をご苦労どころかむしろ楽しみ、研究対象となる生きものたちとの交流の時間を慈しんでいらっしゃるようでした。

研究者として大切なことのためには手間隙を惜しまない姿勢は学生指導においても同様で、「仁平ゼミ」は受講希望者数が毎年第一位という不動の人気ゼミでした。そして、そのお心構えが際立って示されたのは、上述の平成27年9月に当地が被った100年に一度といわれる大水災害(平成27年9月関東・北関東豪雨)の折でした。仁平先生は、教育学部長として「最後の一人まで、学生全員に連絡がつくまで安否確認を止めてはならない」と洪水被災学生調査支援WGを立ち上げられ、本学ではもっとも大所帯の教育学部の陣頭指揮をとり連日復旧作業に当たられました。幸い、クラス担任やゼミ担当教員を通じて、1年生から4年生、過年度生まで在学生全員の無事が確認できたときには、教職員一同で安堵の喜びに湧きました。

研究者として教育者として、仁平先生には、もっともっとお教えいただきたいことがございますが、幸い4月からも新しい大学にて専任教員として教育研究に従事されるご予定と伺い、とても嬉しく心強く感じております。今後とも引き続き、わたくしども心理学の後進のみならず、さまざまな学術分野でのご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

先生のますますのご健勝とご多幸をお祈りして、ここに心からの感謝を捧げます。

仁平義明先生、ありがとうございました。